



発行：宇治久世教職員組合
 宇治市大久保町上ノ山29-1
 TEL：0774-44-6191
 FAX：0774-44-8026
 Mail：info@ujikuse.jp
 HP：<http://www.ujikuse.jp/>

宇治久世「夏の教研」開催

8月24日(金)に「夏の教研」が宇治市生涯学習センターで開かれました。春日井 敏之先生(立命館大学教授)を講師に「どうみる?かかわる?子どもの成長—日常のトラブルへの指導・支援を考える—」をテーマに講演していただきました。対話しながらの講演は大変分かりやすく、参加者はみんな引き込まれていました。

ブックフェアでは2学期から使ってもらえる本がなれば、たくさんのかたに買っていただくことができました。



【主な講演内容】

群れて遊ぶことに自治の原点がある

自治のない集団活動は教師による操作・コントロールに使われます。だから子どもはしらけます。自分たちで決めることが大事。その中で、失敗や成功を重ねながら子どもは育ちます。群れの時期をきちんとくぐっていると集団作りへとつながります。学校や地域がそのような場になっていかなければなりません。集団作りに自治の視点をおかないとだめです。

子どもをどうとらえるか

2歳から3歳はいよいよや期。それは、自我が目覚めているということです。やきもちもやくし、不安にもなります。その2歳、3歳で芽生えた自我が、小学校・中学校でどのように成長しているのか、そこを問いたい。小学校に入って親や先生の顔色・通知表を見て過ごしている子どもたち。子どもたちは、自分がどのように評価されているか・期待されているのか、そういうことを一生懸命気にしている、あるいは「こわい」という思いを抱いています。

実は、小学校の学校の先生がこわいと思っている子どもたちはたくさんいます。どうしてでしょうか?「こわい」と先生は思われています。親がこわいと思っている子どももたくさんいます。家もこわい、先生もこわい。どうやってその子どもたちは、安心安全に自分を出せるのでしょうか?そういう子どもは、だから、自分より弱い子にあたるのです。

先生ってやさしいって思われていますか?子どもに聞いたことはありますか?1回聞いてみ



ましよう。
 1年生にとって初めての環境で慣れないところで、「先生がこわい」から学校生活が始まるとしたらかわいそうではないですか?

「こわい」と言っている子どもがたくさんいます。先生の立ち位置や姿が子どもにどう映っているのかということは一度聞いたほうがいいと思います。

人間は生涯発達する

- ①発達には個人差がある
- ②人間は一生発達する
- ③人間の発達は螺旋形の円環的なプロセスをたどる

落ち込んでいるように見えるときはエネルギーをためこんでいるとき。例えば5年生で不登校になったとしても、それは落ち込んでいるように見えるけれどもエネルギーをためこんでいるときで、無駄なことはしていません。

また、何かができるという視点で発達を捉えることには問題があります。そうすると、障害を持つ人やお年寄りには発達していないことになるからです。

私たちは、よく子どもに社会的自立をと言っているけれども、自立って何でしょうか。みなさんは、社会的に自立できていますか?

まさに、人が生きていくプロセスそのものが社会的自立という枠でとらえる課題ではないでしょうか?だから、子どもも大人も共感できます。未熟な者が生まれ、他者と関わりながら、社会と関わりながら一生懸命生きていくそのプロセスそのものを社会的自立と捉えるべきです。だから、ゴールがあるわけではありません。

その中で大切にしたいことは、子どもたちにつながっていきける力を育てたいということです。つながっていきけるということの中身は3つあります。1つはだれかを助けてつながって生きることです。2つ目は、誰かに助けてもらってつながって生きる力です。「助けて」という力はとても大切です。3つ目は、仲間と楽しいことをしてつながるということです。

だから、つながって生きる力をどう育てるか?そのために、学校はあるのだと思います。

思春期の課題

- ①働くこと
- ②愛すること
- ③社会参加すること(好きなことを通して)

キャリア教育とは、人として生き方やあり方を考えること。そのときに、先生たちは自分のことを子どもに語ってあげてほしいと思います。内閣府の調査では、ひきこもりのきっかけの中で

1番多いのは、「職場になじめなかった」の23.7%。2番目が就活でのつまずきでした。足すと44%です。逆に小中高と不登校でその延長というものが少なく11.9%です。「私たちの不登校の親の会では、長期の引きこもりの子はいません。小中高で不登校になって助けてと言えたから。そして、よい援助者に出会えたからではないか。だから、社会に出て挫折や不具合が起こるけれども助けてと言える力がついたからではないか」と親の方は言うておられました。だから、私たちは小中高で挫折しないよい子や右肩上がりのよい子を育てようとするけれども、むしろ「小中高でいっぱい失敗や葛藤や挫折もして、そのときにちゃんと助けてって言うことができた、そして、そのときにたくさんの人に世話になった。だから、だれかを助ける人になれる。」そういう子を育てていかなければならないのではないのでしょうか。

何になりたいのかという問いの前に、どんな人間になりたいかという問いを大事にしてください。そうすれば、選択肢も広がります。広い幅の中で自己決定をしていくことが大切だと思います。

もう一つ大事にしたいのは、何のために生きているのかという問いです。それを考えていくことが大切だということです。

もう一つの問いは、自分が今大事にしているものは何かという問いです。この問いもまた、子どもと信頼関係を築くのにとってもいいです。そして、なぜと聞いてあげてください。それは、心の窓になるからです。

愛着関係について

子どもも大人も承認要求が強いものです。承認要求が強い背景は2つありあます。1つは愛着関係の課題。特に親との関係。存在レベルで認めてもらえない子どもは承認要求が強くなる傾向があります。もう1つは、日常における小さな自己決定を積み重ねてきていないということです。これをどれくらい私たちが大事にしてやっているか？自己決定のプロセスが大事です。

自己決定を応援するには2つのことが大切です。1つ目は、自己決定のプロセスを大事にするということ。もう1つは自己決定の結果の正否に関わらず応援しつづけることです。これがないと自己責任論に落ち込みます。

人生は成功体験よりも失敗体験のほうが多いのではないですか？だから、その失敗体験をどうくぐるか、その中で生きる力が培われます。そのときにサブエンジンの私たちがどう励ますのか。「結果にこだわりつつ結果にこだわらない」ことがプロセス評価です。

コミュニケーション能力について

コミュニケーションには、双方向と一方通行があります。マスコミやネットは一方通行です。だからトラブルが起こるのです。大切なのは双方向のコミュニケーションです。意味の共有と意思疎通が大切です。これは絶えず確認しなければいけないことです。大事な関わりは「問う、聞く、語る」この順番です。そして、察する感性です。みなさんは、その感性をどのように守っていますか？放っておくと摩耗します。どうですか？ヒトとして生まれたものが人間に育っていくためには、人間関係 自然との関係、文化との関係が必要です。その中で感性は磨かれます。

不登校の子どもたちもそうです。どういう文化に触れて支えられているかということです。思

春期において、その3つの関わりは、自分と向き合う入り口になります。そういう深い意味があります。だから、友達が少なくてもいいのです。生きているのだから。数じゃないのです。それ以外のところで自分が充電できる場所があればいいのです。そういうことを励ましてやるのが大切です。そして、子どもの表現を翻訳してやるのが大切です。「問う」というのは言動の意味を問うということです。「聞く」というのは、感情を聴き取るということです。そのときに、感情の応答をすることが大切です。「分析」から入ってしまうとボタンの掛け違いをしてしまいます。それを面談の場でやってしまうと親はしんどい。親の感情を受け取ることがプロの仕事です。そして、先生自身の失敗を語ることも大切です。

自己肯定感

「ほめる たよる 励ます」ことをしながら存在レベルで認めていくことが大切です。みんな大切だよということを常に伝えてやってほしいと思います。自己肯定感が高い低いで評価されるものではありません。いろいろと関わっていくなかで気づいたら育っているもの。それが自己肯定感だと思います。

※参加者の感想から

- ・最近、自分自身が追い込まれていて、子どもも追い込みそうと思っていたのですが、今日の話聞いて心が楽になりました。
- ・今回の話を聞いて、まずしたいと思ったことは自分の失敗を子どもに伝えることです。2学期が今から楽しみです。
- ・「問う 聞く、語る」ことをもっと大切にしていきたいと思いました。不登校→学校に来させる→何かさせる（学習）（教室で）ということが子どものエネルギーをたくわえるところか消費させているように思います。子どもの応援をしていきたいです。



総合共済は結婚、出産やお見舞いなど、様々な給付が受けられます。そして月600円の掛け金は退職時に全額戻ります。

実践と交流をさらに深めよう！

「秋の教研・青年教研2018」開催

夏の教研で学習したことを力に今度は秋の教研です。それぞれが資料や実践を持ち寄って成功させましょう！！また、青年教研もあります。みんなで学習しましょう。

10月17日(水)15:30～秋の教研 生涯学習センター

10月20日(土)14:00～青年教研 城南勤福

10月26日(金)19:00～秋の教研(中学校生指) 教育会館